1Ep－8

ゆかたに関する着用意識の変化について　第２報

石井美奈子
三島学園女子短大

目的　前報(1)では、被服の内衣の外衣化という現象に着目して、ゆかたを着用しようとする20歳前後の女性を対象に着用場面をどのようにとられているのかを調査した。これにより、ゆかたがホームウエアの立場からタウンウエアへと認識されていることが確認できた。またこの認識については、1990年代前半に発行された女性向けファッション雑誌にゆかたに関する記事が多く取り上げられたことに起因し、「ゆかたブーム」といわれている時代であった。本研究では、女子大生・短大生の情報元であったファッション雑誌に着目し当時から現在までのゆかたの着用意識について考察する。

方法　ファッション情報誌の1980年代から現在に至るまでのゆかたに関する記事を抽出し内容を検討した。併せて、新聞のゆかたに関する記事についても検討を行った。商品としてのゆかたの取り扱われ方にも着目し、販売方法の変化についても検討をおこなった。

結果　約18年間にわたるファッション情報誌の記事の流れの中で、ゆかたに関する情報の質と量には変化がみられた。「ゆかたブーム」としての情報もみられるが、ブームの定着と最近の情報の変化には、ゆかたや着物を伝統的な被服としてこだわらない傾向も現れてきていることがわかった。

(1)石井　美奈子　(社)日本家政学会第45回大会研究発表要旨集，２Dp－15